決算特別委員会

録画配信

一般会計

歳　入

〔町の収入〕

入湯税増収の要因は

衣袋委員　**当初予算では、前年対比でかなり低い割に、決算での収入済額が倍増している要因を伺う。**

税務出納課長　当初予算については、前年度の宿泊人数等が下がっている状況を参考として、予算を計上した内容となっている。

商工観光課長　令和7年度のパレス松風の利用者は、前年度より約5700人の増となり、宿泊は約3800人の増となっている。要因としては、新たな情報発信の強化などによる利用者の増加が入湯税の増加に寄与したものと考えている。

森林再生基金の繰入

丸川委員　**森林再生基金繰入において、収入済額が予算現額より65％ほど減額になっている理由を伺う。**

林政課長　境界明確化の筆界想定図の策定において、特別交付税を使った方が有利ではないかとなり、基金を活用しなかったため。

丸川委員　**今後この基金を主にどのような事業に活用していくのか。**

林政課長　森林整備の下刈り事業は町独自で補助している部分があり、それを続けていくための活用が一番大きいと考えている。



歳　出

〔町の支出〕

総務費

移住相談に30人超

笹原委員　**ふるさと移住プログラムの成果と実績を伺う。**

企画政策課長　首都圏で行った移住相談会には30人を超える相談があった。また、11人にしらたか若者移住定住交付金を支給した。8割がUターンだった。

監査意見

政策課題への計画的遂行と成果を評価する

令和7年度各会計決算は、施政方針に基づき、各施策が計画的に遂行され、おおむね期待された成果が得られたものと評価する。

一般会計における財政状況では、実質収支は6億1814万2千円の黒字となり、実質収支比率は11・3％となり前年比2ポイントの増加となった。

また、経常収支比率は前年度比2・3ポイント減少し、90・8％となった。

前年度に比べ、財政構造の弾力性が改善されたといえるが、今後とも、これら指標の推移を注視しながら健全な財政運営に努めていただきたい。

主な事業では、人材確保、子育て支援、教育のデジタル化、農業の担い手育成、産業の振興、定住化推進など、町の重要課題に対し、積極的に展開され成果が上がったものと評価する。

町を取り巻く情勢は、人口減少の急速進行、異常気象や気候の急激変動による災害や経済的損失への備えや対応、また、高度情報化社会への対応など複雑・困難化している。

健全な財政を堅持しつつ、町民の安心安全な生活と福祉の向上に、一層の努力を期待する。

代表監査委員　小谷部　仁

監査委員　今野　正明